近世城郭のルーツ 小牧山城

石垣がかたる信長の城づくり

主郭地区発掘調査から

小牧山城（国指定史跡　小牧山）は天正12年（1584）、小牧・長久手の合戦で徳川家康の本陣となったことで知られていますが、それを遡ること21年前の永禄6年（1563）に織田信長が初めて自らの手で築き、岐阜に移るまでの4年間居城とした城でもあります。

史跡整備に伴う近年の発掘調査によりあきらかになりつつある、信長が築いた当時の小牧山城の姿を紹介します。

信長天下統一への過程と城郭

年　代	信長年齢	できごと	城郭名	信長築城か？
弘治　元年（1555）	22歳	清須城入城	清須城：石垣なし	×
永禄　3年（1560）	27歳	桶狭間の戦いで今川義元を討つ		
永禄　6年（1563）	30歳	小牧山城築城、清須から移る	小牧山城：石垣構築	○
永禄10年（1567）	34歳	稲葉山城攻略、岐阜城と改め小牧山城から移る	岐阜城（千畳敷）：巨石石積	改修
天正　4年（1576）	43歳	安土城築城開始	安土城：総石垣	○
天正10年（1582）	49歳	本能寺の変		

小牧山城石垣の特徴1 巨石野面積石垣

①北西の張出し部は特に巨石が使用されている

②残存するのは基底部付近の2～3段でさらに3～4段石垣が積まれていたと推定される

③隅角部は算木積とならない

④主郭大手脇には花崗岩巨石を配置

⑤石垣(下段)に設けられた石枡

⑥デザイン性のある石垣

小牧山城石垣の特徴2 2～3段の段築:岩盤加工との併用

⑦上下2段の石垣

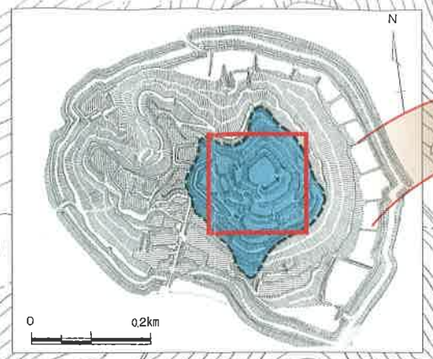
⑧岩盤加工の入隅と石垣

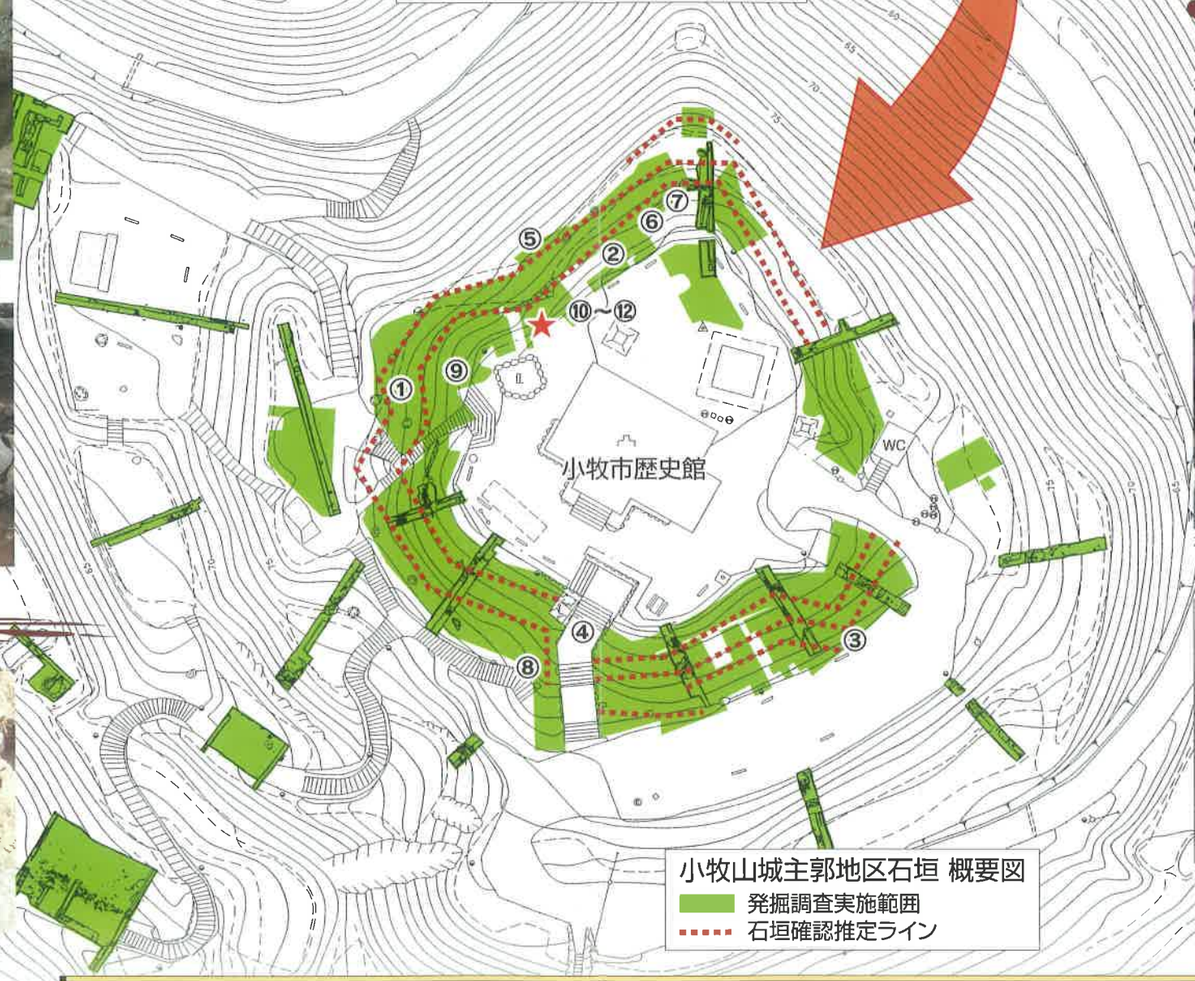
小牧山城石垣の特徴3 主郭の盛り土造成と大規模な地形改変

⑨本来の地山面の上に2m以上の造成土

⑩主郭遺構面の造成

小牧山城縄張図(　が主郭地区)





小牧山城石垣の特徴4 裏込石・土留石の使用

⑪石垣の裏を上から見たところ

⑫左から石垣の尻部、裏込石、土留石、造成土

小牧山城石垣の特徴5 墨書石垣石材の発見

平成22年度実施の第3次発掘調査中、調査区内で墨で文字が書かれた(墨書)石垣石材が1点出土しました。

- ●法　　量：長辺60㎝×短辺35㎝×高さ20㎝　重量93.5kg
- ●石　　材：チャート(小牧山産)自然角礫
- ●出土位置：裏込石の流れ込みの中から出土(★の位置)

【墨書の内容】

●『佐久間』

石垣石材(小牧市歴史館にて展示中)

墨書部分の赤外線写真

石垣石材実測図

墨書部分拡大

小牧山城の石垣を築いたのは 信長？家康？

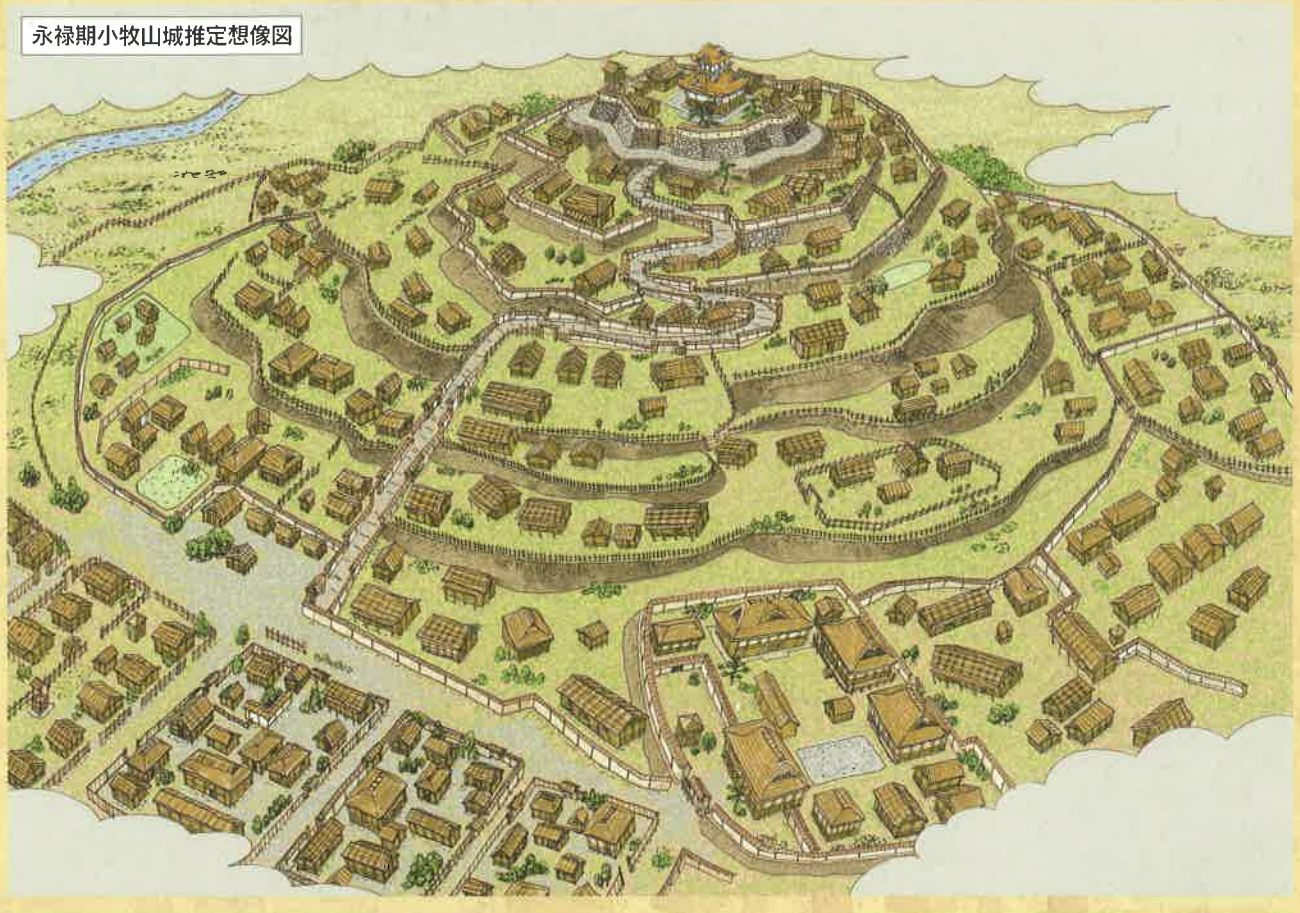
小牧山城の石垣が築かれた時期について、出土した資料(遺物)による時期判定は少量のため困難です。しかし、小牧山城をめぐる歴史的経緯からみて、永禄6年(1563)織田信長の小牧山城築城時、または天正12年(1584)徳川家康による小牧・長久手の合戦の際の改修時のどちらかに絞られることは間違いありません。天正期の改修については、これまでの調査では石垣あるいは石を用いた形跡は一切確認できていません。一方、大手道の調査では、石積を採用した永禄期の大手道を天正期の石積のない大手道が埋め立てていることが確認されました。【A】

また、主郭をめぐる石垣の調査で、石垣石材の一部に小牧山北東に位置する岩崎山から運んだと思われる花崗岩が使われていることが判明しました。【B】岩崎山は小牧・長久手の合戦時には敵である羽柴(豊臣)秀吉方の砦として使用されており、敵方の陣地から石材を調達して石垣を構築する、ということは不可能であると思われます。

これらの調査成果から、小牧山城の石垣は信長が築いたと推定できます。

【A】新旧2つの大手道

【B】石垣に用いられた花崗岩石材


永禄期小牧山城推定想像図

信長の小牧山城の姿は？

小牧山城で見つかった石垣は、安土城の石垣に先行し、信長が既に尾張段階で城郭に石垣を採用するという意図を持って築いていることがわかりました。

山頂には何らかの建物があったと考えられますが、現在その位置には小牧市歴史館（小牧城）があり、当時の様子を知ることはできません。ただ、発掘調査では瓦が出土していないことから、建造物があったとしても瓦葺の建物ではなかったと考えられます。

これまで信長の小牧山城は、わずか4年の居城期間から、美濃攻めのための簡易な砦と考えられていました。しかし、城の南に城下町が計画的に整備されていたという調査結果と併せて、清須から居城と町を一度に移転させるという、信長の「尾張国首都移転構想」とも言うべき壮大な計画が存在したことがうかがわれるのです。

小牧山城主郭推定復元模型（小牧市歴史館にて展示中）

信長の野望と小牧山城

「城」という字が「土」と「成」でできているように、信長以前の城は土を掘ったり（＝堀）、盛り上げたり（＝土塁）した戦闘・防御のための施設でした。その施設に信長は石垣を採用し（小牧山城）、瓦を葺いた建物を建て（岐阜城）、その集大成として安土城を作り上げたのです。信長は城に対して単なる戦闘施設という枠を超え、政治機能を持ち、権力・権威の象徴としての建築複合体、つまりモニュメントとしての役割を持たせたのでしょう。信長により城は「戦う城」から「見せる城」へ劇的に変貌しました。信長が作り出した新しい城の概念はその後近世城郭に継承され、我々がイメージする城へと続くのです。

問合先　小牧市教育委員会 文化振興課
〒485-8650 愛知県小牧市堀の内三丁目１番地
TEL（0568）76-1189